



TITLE:

雑纂

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑纂. 日本外科宝函 1942, 19(2): 418-422

ISSUE DATE:

1942-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/205290>

RIGHT:

## 鷺尾博士ヨリ鳥潟名譽教授ヘノ信書

昭和16年12月17日附ニテ鷺尾博士ヨリ鳥潟名譽教授宛ニ通信アリ、「丹毒ノ治療ニ就テ」ト題スル演説ノ原稿ヲ寄セラレタリ。一般ノ參考ノ爲ニ請ヒテ茲ニ登載ス。

外科寶函編輯部

『前略……先日(12月9日)ハオ元氣ナル御尊顔ヲ拜シマシテ誠ニ嬉シク存ジマシタ。御言葉ノ如ク學問ノミナラズ、之ヲ實地ニ用キナケレバナラナイト信ジマス。小生醫院ニハ丹毒ノ患者ト蟲様突起炎穿孔ニヨル腹膜炎ノ患者ガ非常ニ多く、丹毒ハ連鎖狀球菌「コクチゲン」ヲ大量(10—15兎)注射スルコトニヨリ全ク安心シテ外來デ確實ニ治癒シ得ル絶對の信仰ヲ持ツテキマス。急性腹膜炎ノ場合ハ大腹菌「コクチゲン」5—10兎ヲ(手術ト同時ニ注射スルコトニヨリ全ク自信ヲ以テ治療スルコトガ出來マス。小サイ醫院ナガラモ先日ノ先生ノ御訓ヘヲ開業以來實行シ得マシタコトハ全ク感激ニ堪ヘマセン。先日ノ宴會ノ席ニテ(中止トナリマシタガ)皆サンノ前ニテ「丹毒ノ治療ニ就テ」申上ゲルツモリデシタガ中止ニナリマシテ残念デシタ。甚ダ拙文デアリマスガ其時ノ原稿ヲ御送附申上ゲマス。オ笑ヒニナルカモ知レマセンガ、過去7年間先生ノ御研究ヲ實地ニ實行サセテ頂イテキル一人デアリマス證據品デス。……下略』

### 丹毒ノ治療 (附 猩紅熱)

神戸須磨ニ開業シマシテ滿7年ニナリマス。其ノ間ニ丹毒ヲ治療シマシタ例ハ非常ニ澤山アリマス。最近ニ於イテ治療シマシタ8例ヲ御覽ニ入レマス(別表)。

元來日本人ハ氣ガ小サクテ外國崇拜ノ國民デアリマス。故ニ日本人ガ創造シ發明シタ物ハ何デモ用ヒナイ。タトヘソレガ優秀品デアツテモ「横文字入りノ舶來品デナイト用ヒナイ」ト云フ實ニ恥カシイ國民性ヲ持ツテキマス。私達ガ帝大外科ノ教室ニオ世話ニナツテキマシタ時ニデモ、私達ノ外科ノ教室ニ於イテスラ「コクチゲン」ヲアマリ用ヒナカツタト云フコトヲ申上ゲネバナリマセン。

ソレデ丹毒ノ患者ハ『入院サセテ、強心劑、リンゲル、血清、自家血液ヲ注射スベシ』ト先輩諸先生カラ指導サレタモノデス。勿論以上ノ様ナ手當デハ1日ヤ2日デハ症狀ハ決シテ輕快シマセン。約2週間位或ハ1ヶ月位、39度前後ノ熱ガ續キ漸ク解熱シ快方ニ向ツタモノデス。即チ顔面ナレバ左右兩側頭部等ヲ全部廻リ、首ノ附近ヘ來テ漸ク停止スルト云フ狀態デシタ。ソノ間醫師ハ勿論、患者側モ非常ニ心配シタモノデス。勿論、或ルモノハ豫後面白カラズ死亡スルコトモ稀デナカツタノデアリマス。

最近ニテモ我が神戸ノ有數ノ大病院外科ニテモ相變ラズ以上ノ様ナ治療ヲ施シ、僅カニ「ズル  
フオンアミド」劑ニヨリ補助スル位ナモノデス。

デスカラ丹毒ト診斷サレマスト患者ハ非常ニ心配シマス。以下申上ゲマスコトハ絶対ニ眞實  
デアルコト、決シテ我田引水デナク、本當ニ心カラ『未ダ「コクチゲン」ヲ用ヒザル人々ニ用ヒ  
テ欲シイ念願カラ申上ゲルノデアルコト』ヲ天地神明ニ誓ツテヲキマス。

私ハ過去7年間ニ200例ノ丹毒ヲ治療シテキルト思ヒマス。ソレデ最近ノ8例(3ヶ月)ヲ精  
ニ熱表ヲトリ、記録シタノデスガ、治療效果ハ全ク別表ノ通りデス。

勿論過去7年ノ内ハジメノ3年間ハ前述ノ如キ從來ノ治療法ト共ニ連鎖狀球菌「コクチゲン」  
ヲ大量ニ用ヒテ治效確實ナルコトヲ知りマシタノデスガ、其後ノ滿4年間ハ全ク「コクチゲン」  
ノミテ充分確實デアル自信ヲ得マシテ、ソノ後ハ「コクチゲン」ノミヲ用ヒテ絶対的ナル治效  
ヲ舉ゲテキマス。

即チ外來ニテ、ナルベク局所ニ近ク、10—15銑ノ連「コクチゲン」ヲ注射シマスト、發病第2—3  
日ノモノハ翌日ニテ治效顯著ニシテ必ず解熱シ、局所ノ發赤腫脹ハ消退シハジメ擴大シテキナ  
イカ若シ擴大シテキテモ僅少デアリマス。尙ホ引キツゞキ10—15銑ヲ合計4回注射シマシテ全  
治シナイ例ハ未ダ1例モ知りマセン。(發病1週間以上ニテ  
モ5, 6回注射ニテ)

即チ「コクチゲン」ヲ用ヒマスト外來デ安心シテ確實ニ治療スルコトガ出來マス。アマリ治效  
顯著デスノデ「丹毒」デ無カツタノデセウ「ト反問サレテ困ルコトシバシバデス。ソレデ近頃デハ  
豫メ、『非常ニ效果顯著ダカラ丹毒デナカツタカト疑フ人ガアルガ、ソレハコノ注射ノ爲メダカ  
ラ間違ハヌ様ニシテ下サイ。』ト注意スルコトニシテ居リマス。

最近ノ1例ヲ申シマス。

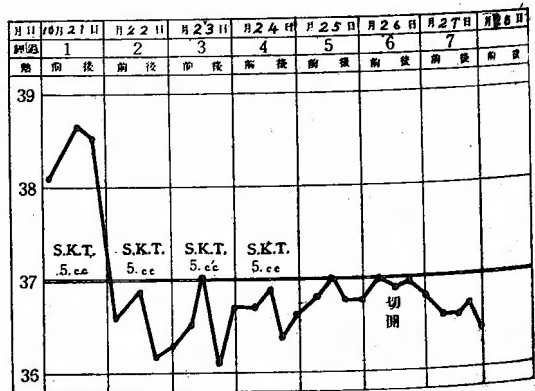
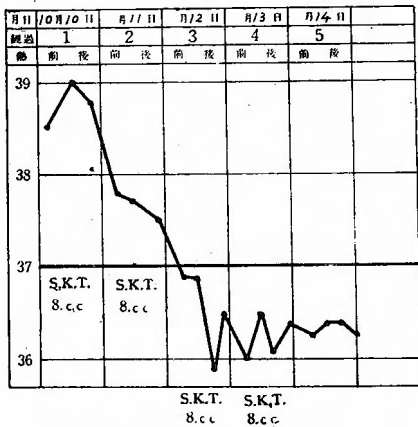
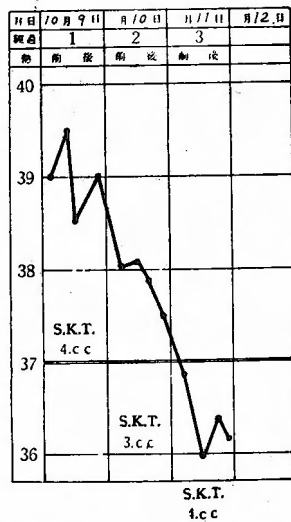
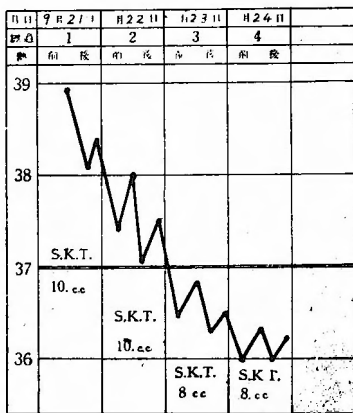
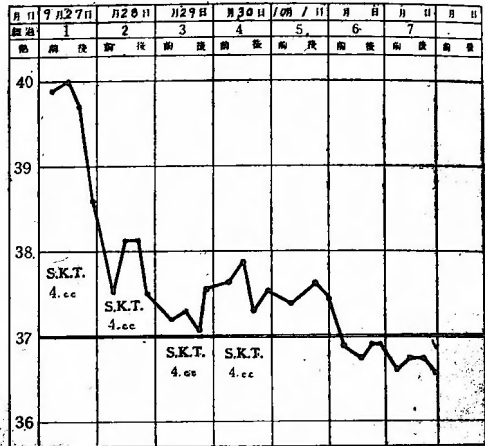
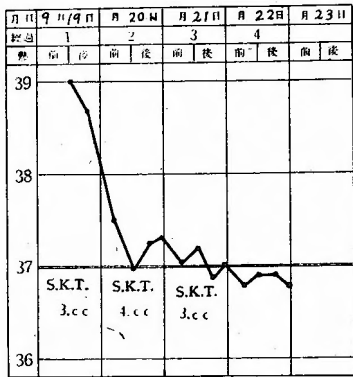
私ノ近クニ本學出身ノ瀨藤忠君ト云フ耳鼻科ノ醫學士ガ居リマスガ、最近中耳炎ノ患者(50  
歳ノ女)ヲ處置シテキマシタ所、2日前カラ丹毒ガ起ツテ、色々ヤツテ見タガ治效思ハシカラズ、  
小生ノ醫院ニ入院サセテ手當ヲシテ呉レトノ依頼デシタ。ソレデ私ノ治療方針ヲ教ヘ、3回10  
瓦宛注射シテ治癒セナケレバ俺ノ首デモヤルヨト云ツテヤツタノデスガ、ソノ後私ノ申シマシ  
タ様ニ3回目ニハ全治シタ。『アンナニヨク效ク藥ガアレバモウ丹毒ハ心配ナイネ——』ト云ツ  
テ非常ニ感謝サレマシタ。コレナドハ電話一ツデ重篤ナル患者ヲ救ツタ1例デス。全ク「コク  
チゲン」ノオカガデス。

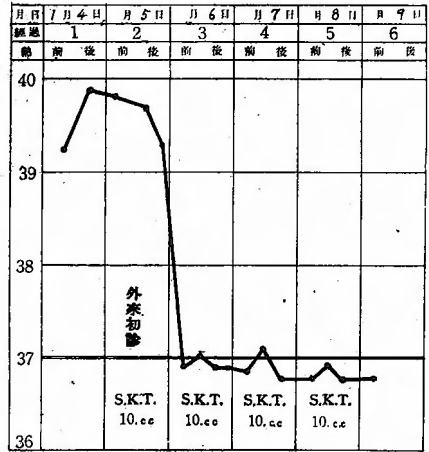
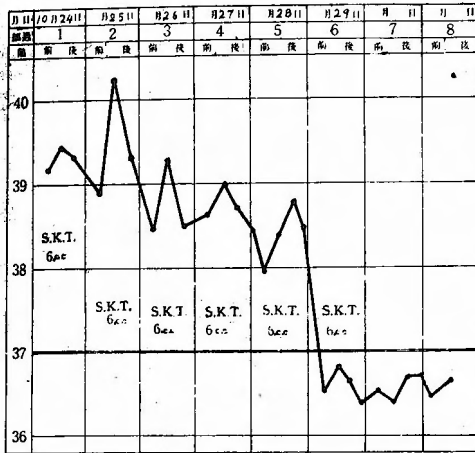
一般ニ當地方ニテモ「コクチゲン」ハ用ヒラレテキマスガ、量ガ少ナイノデナイデセウカ。『大  
量10—15銑ヲ一度ニ用ヒテモヨイ』ト云フコトヲ大イニ指導スベキデスト思ヒマス。

尙私ハ猩紅熱ノ患者十數例ニ用ヒマシタガ、イヅレモ治效顯著デス。最近2ヶ月ニテ3例ニ  
連「コクチゲン」10銑ヲ用ヒマシタガ、第1回注射ノ翌日ニテスデニ皮膚ノ發赤ハ非常ニ少ナク、  
第2回ノ翌日ニハ全ク消失シテキマシタ。

「コクチゲン」ノ治療效果ハ全ク絶大ナモノデス。他ノ「コクチゲン」モ此ノ連「コクチゲン」ノ

様=量ヲ判然ト指導スレバ必ズヤ丹毒ニ對スル連鎖狀球菌<sup>1</sup>ノ治效ト同様ノ治效ヲ  
現ハスモノナルコトハ火ヲ見ルヨリハ明ラカデアルト信ジマス。





## 鷺尾博士ノ報告ニ追記ス

鳥 潟 隆 三

道ヲ聞キ道ヲ知ツタナラバ、ソレヲ廣メテ全世界ヲ濟ハントスル努力ヲ致シ、ソレヲ實現スルノデナケレバ何ノ役ニモ立タナイ。鷺尾博士ガ研究ノ作業デ得タル自己ノ信念ヲ臨床實地ノ上デ多年ニ亙ツテ活カシテ働カセ、マタ其ノ結果ヲ學界ニ發表シテ少シデモ廣ク濟世ノ用ニ供セントスルノハ誠ニ感心ノ至リデアリマス。

## 京都外科集談會2月例会

昭和17年2月20日(金)午後6時ヨリ京大樂友會館ニ於テ、下記臨床例報告ガアツタ。

結腸癌ト誤診シタル膽石症

副 島 謙

下顎部ヨリ發生シタル混合腫瘍ノ1例

三 原 正 春

非特異性迴腸末端炎ノ1例

吳 由 裳

糞塊ニヨル<sub>L</sub>イレウスヲ思ハシメタル迴盲癌ノ1例

本 庶 英 夫

寒性膿瘍ニヨリ呼吸困難ヲ來セル胸椎<sub>L</sub>カリエス<sub>7</sub>ノ1例

陳 春 財

上行結腸憩室ヲ來セル盲腸後部虫垂炎

王 和 成

結核性肺空洞ニ對スル横隔膜神經捻除術ノ効果ニ就テ

青 木 堅 太 郎

## 京都外科集談會 3 月例會

昭和 17 年 3 月 20 日 (金) 午後 6 時ヨリ京大樂友會館ニ於テ、下記臨床例報告ガアツク。

年長兒股關節脱臼

肝臟膽汁瘻と線治療

腰椎逸脱症と黃色靱帶肥厚

胸圍結核ニ關スル知見並ニ手術方針ニ就テ

縊帶ノ末梢血行ニ及ボス影響

肺炎菌性膿胸及ビ浸出性肋膜炎ノ治療方針

胃内容排出機轉ノ考察ト跨大彎胃空腸吻合術

炎症性腦肉芽腫ノ臨床的經驗

腦外傷ノ經驗

守 永 幸 男

王 和 成

陳 春 財

竹内信一、林 仲 琛

鹽 津 德 政

房 岡 講 師

石 野 講 師

淺 野 助 教 授

荒 木 教 授

## 會 員 動 靜

### 入 會

京都市左京區松ヶ崎東櫻木町 33

朝鮮京城府旭醫學專門學校外科

朝鮮京城府旭醫學專門學校外科

潮 彈 正

長 谷 仁 熙

山 田 永 甫

### 轉 居

福岡縣嘉穂郡稻築町鳴生 三井鑛山株式會社山野産業醫學研究所

大阪市港區磯路町 3 丁目 23 藤田方

滿洲國吉林省公主嶺滿洲第 248 部隊

滿洲國ハルビン市滿洲第 5667 部隊川目隊

兵庫縣武庫郡魚崎町横尾字内田 63ノ1

大連市聖德街 5 丁目 40 番地

滿洲國錦州市靜安街 滿赤錦州病院

京都府下峯山町 丹後中央病院外科

石 西 進

枋 尾 清 一

内 藤 行 雄

足 立 道 五 郎

田 代 雅

荒 木 松 實

篠 原 一 幸

井 上 諒